

※令和 2 年度附属中学校公開研究会で提案した「教科等実践報告」及び掲載動画に対するコメントを紹介させていただきます。

●参加者の M 先生より

(Web 上発表の形式での令和 2 年度公開研究会が) 非常に面白い形式でしたし、自分の参加しやすい時に参加できるのはありがたいです。授業動画があるものとないものがあり、やはりある方が嬉しかったです。数学の内容を拝見しました。以下、それぞれの感想です。

(以下、3 年の実践について掲載)

道幅が「一定」と問題で既に仮定されているんですが、かどは道幅が広いような気がするなぁと個人的にはいつも思う題材です。式から拡張していくのも定番でありながら、what-if-not が感じられていいなと思いました。私の場合、この動画を拝見して、「道幅が一定でありながらも、 $S=al$ で求まらない図形はあるのかな？」という疑問を持ちました。そういうのも面白そうですね。今回レポートのテーマを書きやすくするためにも絞られたのだと思いますが、絞ると書きやすいが創発は出にくいし、絞らないと面白いが書きにくくなるし評価も大変になるということ、レポート課題を多くやっていた時の悩みを思い出しました。

→ 実践提案者より

お茶中の藤原です。このたびは、私の 3 年の実践&動画をご覧いただき、ご感想などをお寄せくださり、誠にありがとうございました。

思い起こせば、札幌での日数教全国大会でレポート実践についての拙い発表に対してお声かけいただいて先生と知り合うことができたのでしたね。その節から誠にありがとうございました。

さて、ご指摘いただいた点につきまして。レポートを生徒が作成する中で、「道幅一定でになるのか、ならないのか」が探究の原動力になってくるので、先生ご指摘の「道幅が一定でありながらも、 $S=al$ で求まらない図形はあるのかな？」ということに関心を抱いて探究を進める生徒も一定数いました。

「絞ると書きやすいが創発は出にくいし、絞らないと面白いが書きにくくなるし評価も大変になるということ」については、仰ること、よくわかります！苦手な生徒もいますし、問いがなんなのかをまず理解して考え進めることができないと形になりませんので、こうしています。目の前の生徒達の状況に合わせて問いを発することが大切かもしれません。共通の問いについて考え始める過程で、自身にとって特に気になる問いを創出していくことがこれからよりよく

生きていく上で大切になるかと思います。（現在、中教審特別部会の「中間まとめ」で整理されつつある 「学習の個別化」にも関わるのでしょうかね。）

評価については、よい面をたくさん見つけて、好意的に評価を付けてあげたいし、コメントもたくさん書いてあげたいと考えています。評価にあまり時間がかかりすぎないように、レポートの表紙に簡単なループリック的な評価規準を示すようにはしています。それでも、読むのが楽しすぎて、ついつい時間をかけてしまう、という点が玉に瑕です。笑